

令和6年3月1日

## 学年度末を迎えて想うこと

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

季節は確実に春に向かっていきます。別れと出会いの季節が近づいています。子どもたちは卒業式、修了式といった大きな節目の行事を迎えます。本年度、自分の立てた目標達成に向け、有終の美を飾ってほしいと思います。そして、次なるステップに向けての確かな目標や計画、心構えを構築してほしいと思います。

教職員にとりましては、3月は異動が発表される特別な月です。勤務校への惜別や感謝の念、新任地への期待や不安といった様々な感情が色濃く渦巻きます。この時期になると毎年思うことではありますが、異動者との関わりをもっと深めておけばよかったと反省もします。残された日々を、今いるメンバーと共に心を通わせながら大切に過ごしていきたいと思います。

二度と戻らない年度末の残された日々を子どもたち、教職員と共に充実した教育活動を最後まで展開していきたいと思います。そして、本校の歴史と伝統を確実に次年度に継承していきます。保護者や地域、関係機関の皆様方の変わらぬ御支援、御協力を今後共よろしくお願いします。

令和6年3月2日

## 親の願いを受け止める

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

3月3日はひな祭りです。ひな祭りは桃の花を飾るので桃の節句とも呼ばれています。現代では医学が進歩しており、子どもの死亡率は昔ほど高くありません。しかし、江戸時代には兄弟姉妹の半数が死亡する例も珍しくはありませんでした。端午の節句と併せて、ひな祭りには子どもたちが無事に成長するようにと、親としての切なる願いが込められていました。現在もその想いには変わりはないと思います。

その大切な宝である子どもたちが、学校生活を安全に、そして、自ら楽しく学ぶことのできる環境の構築に努めていきたいと思います。一人ひとりの持つ個性や特性を大切に、知・徳・体をバランスよく開花させてほしいと思います。そのためには学校・家庭・地域社会の連携と信頼関係の構築が必要不可欠です。それぞれの持つ教育機能を十分に発揮していきたいものです。

いよいよ3月です。学年度末のまとめの時期を、子どもたちと共に大切に過ごしていきたいと思います。

令和6年3月4日

## 素敵な訪問者たち

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

昼休みに校長室に子どもたちが遊びに来て、友達のこと、家族のこと等、いろんな話をしてくれます。

ある日、中学年の男の子がやって来て、「校長先生の好きな色は何色ですか。」と尋ねられました。「青色だよ。」と答えると、「10分ほど待っていてください。」と言われたので楽しみに待ちました。その子は青色の折り紙の裏にお手紙を書いてきてくれました。「いつも交差点で見守ってくれてありがとうございます。いつもの俳句は、ぼくの心を動かしてくれます。これからもいろいろとよろしくお願いします。」と書かれていました。

その子の優しさが嬉しくて、感謝の言葉を述べました。すると、「担任の先生が優しいから、僕たちのクラスの子はみんな優しいんだよ。」と教えてくれました。心が温まりました。すぐに担任の先生にそのことをお伝えしました。先生は、照れくさそうに笑っていました。

素敵な訪問者たちの来室を、今後も楽しみに待ちたいと思います。

令和6年3月6日

## 明日になれば仲良くなれる

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

ある日の校長室での話です。

中学年の女子4名が遊びに来て、次のような話をしてくれました。「私たちのクラスでは毎日のようにけんかがあります。仲直りができず、そのまま帰ることもあります。でも大丈夫です。次の日にはみんな仲良くなっています。それに担任の先生がよく見て、話を聴いてくれるからです。」

なるほどと思う新たな気づきがありました。子ども同士、見えない糸で結びつき、暗黙の了解、阿吽の呼吸みたいな空気が、学級の風土として醸成されていると考えました。心理的安全性がその教室にはあるのだと思います。

私はその日のうちに仲直りをしてから家に帰ってほしいし、嫌な思いしている子どもがいないように、みんな仲良く、楽しく、笑顔で過ごせる工夫を考えてほしいと伝えました。しかし、本人たちは明るい表情で、自分たちの学級のよさだと自慢していました。

新たな気づきを教えてくれる小さな訪問者たちの来室が、毎日とても楽しみです。

令和6年3月8日

## 行動で優しさを伝えよう

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

人は喜怒哀楽をより多く経験することにより、他者に対してより寛容に、そして、より優しく接することができるようになるのかもしれませんが。

目の前で困っている人、助けを求めている人、いじめに遭っている人には手を差しのべる、寄り添う、気遣いの言葉をかける等、当たり前のことを当たり前に、勇気を出して行動に移していきたいものです。行動に表れてはじめて、その人の優しさは相手に伝わるからです。

他者からされて嫌だと感じることは、自分は絶対に他者にはしないといった強い信念を持ち、周囲と仲良く、感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいと思えます。また、夢や希望を大切に、目標としている「なりたい自分」の実現に向けて、最後まで粘り強くやり遂げることのできる人間に成長したいです。

子どもたちを教え導く教職員もそんな大人であり続けてほしいと思えます。校庭で元気よく遊ぶ子どもたちや教職員の姿を見ながら、そんなことを考えました。

令和6年3月11日

## 被災地の今を想う

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

3月11日、東日本大震災のあの日から13年、能登地震からは約三ヶ月が経過しました。今もなお困難な生活を送っておられる多くの方々の一日も早い日常の回復を心より御祈念申し上げます。

時の流れの早さに驚かされると共に、当時の記憶や気持ちが鈍化しているように感じます。震災の記憶を風化させないことが何よりの教訓につながると思います。

学校でも毎年、各種災害の避難訓練を行っていますが、自ら考え、自ら身を守る行動が取れるように、防災に対する意識を常に持つことが大切です。

災害はいつ起こるか分かりません。防災マップ、避難経路、防災グッズ、連絡体制等の確認が必要です。また、お互いに声を掛け合って一緒に避難する御近所の方々、地域社会との深いつながりを日頃から構築しておくことも大切です。

復興に向けて、日々努力を継続されている方々の御苦勞を共に感じる気持ちを忘れずに、自分にできることを考え、実行していきたいと思えます。